

2019 年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

I. 事業の成果

1. 組織の運営

- ・ 会員は、運営会員 23 名、賛同会員 100 名となっています。前年度に比較して、全体で 14 名増加しました。寄付件数は 11 件となっています。
- ・ 定例理事会を年 5 回開催しました。
7/18 年間事業計画、9/19 経理規定の作成と災害支援事業について、12/20 年度末までの計画について、3/19 次年度事業計画案について、5/21 第 20 回総会議案について
- ・ 事務局は 20 名（四街道市みんなで地域づくりセンター7 名、おおなみこなみボランティアスタッフ 6 名を含む）の体制で運営しました。

2. 相談事業・NPO の支援事業

相談事業

- ・ 事務所で日常的に相談を受け、「会計」「事業報告書の作成」「活動団体の紹介」「法人の運営」などの相談に対応しました。事務所での相談は 39 件、四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談は 69 件、とみさと市民活動サポートセンターでの相談は 87 件、年間で 195 件の相談件数となっています。

講座、講師派遣事業

- ・ 社会的課題、NPO の状況に沿った内容で主催講座を企画開催しました。
6/8 の総会後に、講演会「NPO の次のフェーズとは？ープラットフォーム型地域づくり」を松原 明さん（認定 NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会理事）を講師に、47 名の参加で開催しました。
 - ・ 千葉県市民活動団体マネジメント事業を受託実施しました。「組織運営」「法人管理」「会計」「労務」をテーマに 6 講座、延べ 222 名の参加を得て開催しました。また、事業の一環として、「出かけてサポート」を実施、個別に団体の課題解決をはかりました。
 - ・ NPO 法人ウイメンズカウンセリングちばとの協働で、「自己表現トレーニング基礎講座 I」講座を 11/5、12、19、26 に、6 名の受講で開催しました。
 - ・ NPO と行政との協働や団体のマネジメント、市民の地域づくり活動への参加等についての講座の企画、講師派遣を行いました。
- ①コミュニティカレッジさくら 2 学年「NPO 法人の設立について」6/16（15 名）、1 学年「NPO 活動・地域づくり活動の社会的役割-他市の実践事例」11/1（30 名）
 - ②習志野市市民活動スキルアップ講座「成果を生む！事業計画作成術」1/10（10 名）
 - ③成田市職員研修「市民協働の可能性についてー協働の新しいカタチと事例紹介」10/7 90 名
 - ④八街市「地域力向上スクール」全 5 回（講義とワーク、事例報告）①地域コーディネーターの必要性と役割 1/25（14 名） ②コーディネーターに必要な基本スキル 2/1（17 名）③地域における様々な活動を知る 2/15（19 名）、④地域における様々な活動を知る 2/22（17 名） ⑤地域資源の活用方法について考える（グループワーク）3/7（18 名）
 - ⑤うらやす市民大学「地域に拓く市民活動の価値と役割」10/3：ちばの WA 地域づくり基金に協力
 - ⑥千葉市緑区フォローアップ研修「成果と課題の洗い出しー今後の活動に向けて」12/13

⑦千葉市ゆたかなセカンドライフ講座「地域活動への参加について」10/24

⑧野田市社会福祉協議会「広報講座」8/9

⑨淑徳大学講義「中間支援組織の役割と機能について」11/19

3. 地域づくりのコーディネート事業

四街道市みんなで地域づくりセンターの運営（地域づくりコーディネーター業務委託事業）

四街道市の2018～2020年度の委託事業として、みんなで地域づくりセンターの運営（コーディネーター業務）を担い、センター事業の企画・実施、スタッフの研修を通して、センター機能の充実をすすめ、市シティセールス推進課と協働して、「みんなで地域づくり（＝市民協働）」を進めました。（オープン日238日、来所者数3,358人※大きなテーブル等を含む。新着情報454件、相談件数69件。今年度は、文化センター耐震工事により、センターが移動し、臨時休館とオープン時間の短縮などがあり、オープン日数は例年より20日程少なくなった）

- ・ 地域の高齢化の中での困りごとを解決するためのコミュニティづくりをサポートするため、「自治会情報交換会」（1回参加21名）を開催。講演「地域の生活者としての外国人～アフガニスタン人の場合」を聴き、参加者から「地域での外国人との交流を図りたい」との意見が出され、今後、自治会や地域の方々と共に交流の場づくりを目指します。また、自治会の高齢化に伴う運営の課題、台風15号の対応について情報交換を行いました。
- ・ 四街道市地域支えあい推進会議に参画し、高齢者支援課や地域包括支援センター、関係団体等と連携して課題に取り組みました。また、地域包括支援センターと、地域での支え合いやそのほかの地域づくりの情報交換を行い、今後も互いの特徴を活かして地域づくりを進めることを確認しました。
- ・ 「子どもをめぐる環境の課題」を解決するための地域のコミュニティづくりのサポートについて、センターと市民が協働して進める「子どもサポートプロジェクト」では、①居場所づくりとして、中高生のオープンスペース「RAKUまある」9月オープン（月1回開催。3月中止）と②大人向けチラシ「困っている子いませんか」と子ども向けチラシ「こどもたちのいばしょさがし」各12000部作製し小学校に配布、WEBサイト（センターホームページにリンク付け）による情報発信を行いました。
- ・ 「子ども支援団体交流会・円卓会議」を開き、子ども支援に関わる取り組みの運営者、関係機関（子育て支援課家庭相談員、教育委員会指導課教育サポート室）が参加し、今後の連携に向け互いの取り組みについて情報交換を行いました。（参加34名）
- ・ 「子ども見守りサポーター養成講座・実践編」（参加31名）を開き、高校図書館カフェ実践者から、居場所の必要性、具体的な大人の関わり方など、子どもを見守り支援していくために必要な視点を学び、地域で子どもを見守る大人を増やすことを目指しました。
- ・ 「第1回子ども食堂交流会・学習会」では、食の安全に関する連続講座第1回として、「食中毒の危険性と予防について～食中毒を防止するとは～」を開催し、子ども食堂の運営者の交流と衛生管理について学びました。交流会では、悩みや相談したいこととして、「スタッフの確保」「参加者への周知方法」「居場所としての工夫」が出され、今後も交流や情報交換をしていきたいとの意見が出されました。（参加34名）
- ・ 昨年の地域づくりサロン「みんなでおしゃべりできる『居場所』をつくろう！」から立ち上がった、みんなの学食「りんごとはちみつ」は、4月から本格オープンして、高校生のスタッフが参加し利用者も定着してきました。今後も、子ども、若者から高齢者まで多様な人を対象とする居場所ができることで地域が豊かになるよう、居場所づくりを進めます。
- ・ 「福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル」（共催 四街道市地域振興財団、協力 障害者

支援課、障害者自立支援協議会就労部会と手作りマルシェ「mamamo ichi」と連携し同日開催。2日間福祉施設12団体、協賛6団体、約830人参加、売上げ50万円)を福祉施設による実行委員会が中心になって開催。福祉施設の販路拡大や就労支援、参加団体と市民、参加団体同士の交流を図りました。今後も各団体が販売品の品質の向上を目指すとともに、互いの活動を知って連携が生まれるような場づくりをサポートしていきます。

- ・ 「夏休み小学生ボランティア体験」(12団体14プログラムに計82人、大人プログラムに参加した保護者33人)を開催し、小学生やその保護者の地域づくりへの理解や参加を進めました。また、中学校職場体験(2校6名)、大学生インターンシップ(6名)を受入れました。
- ・ 地域づくりを進めるため、地域づくりサロン～誰も置き去りにしない・されない地域づくり～として、公開講座「認知症になっても地域から孤立しないで自分らしく暮らすということ」(2回66名)「外国にルーツをもつ人達の現状を知る」(44名)に続き、「コラボ塾」(4回46名)を開いて「コラボ四街道(みんなで地域づくり事業提案制度)」への提案につなげました。
- ・ 「ソシオ・マネジメント勉強会」(9回84名)「広報担当者によるおもしろ広報会議」(2回21人)を開き団体の運営力アップを図りました。
- ・ 市民活動団体のファンレイジング講座「共感を得て活動資金を募るためには」では、資金を得ようとする団体が、寄付や会費で団体を支えてくれる人を増やし、会員や寄付者の気持ちをどのように満たすかなど、参加者が普段の活動に活かせるヒントを得ることができました。
- ・ 「みんなでポジティブぼやき座談会」Zoomを使ったオンライン会議(8名)を開き、新型コロナウイルスの影響による小学校休校などの中で感じることを声に出し合う場をつくり、初めてのオンライン活用で新たな参加者が得られるなど手ごたえが感じられました。
- ・ 地域づくりサロン「まちにとけこむアート活動 誰でも参加できるアートでまちづくり」を計画し広報しましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止(次年度に延期)しました。
- ・ 災害対応・災害支援～災害が起きた時にセンターがどういう役割を果たせるかを検討し、市民活動団体や事業者、関係機関との連携を図ることを目的に、市内の防災情報の聞き取り、台風15号後のセンターでの対応についての話し合いを行い、「NPO・市民活動団体のためのみんなで災害支援ネットワーク会議」を企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、次年度に延期しました。
- ・ 情報誌「みんな」20号「いろいろな言葉の飛び交う四街道へ」21号「若者 四街道 LOVE」22号「ともに」生きるまちへ」23号「近所の大人」になろう」各4500部を発行し団体、公共施設、店舗などで配布し、ホームページに掲載しました。他に、ホームページ、ブログ、メールマガジン、Facebook(いいね!713 昨年643)などにより、センター事業や市民活動団体情報、助成金情報などを発信しました。

富里市まちづくりコーディネーター育成業務

「富里市協働のまちづくり条例」、「富里市協働まちづくり推進計画」に則り、まちづくりコーディネーターとしての職務と施設の役割を理解し、とみさと市民活動サポートセンターの7つの機能が充実するように育成業務を行いました。毎月2回定例開催するコーディネーター会議を研修の場とし、事業企画、実行、進捗管理、ふりかえり、改善というPDCAサイクルに沿って行いました。コーディネーター会議では、市民・地域づくり団体からの相談・問合せにどのような対応・アドバイス・つないだのかを検討、講座・イベントの企画、ニュースレター編集方針・紙面企画・校正等について情報共有、意見交換、議論してきました。センターが主催する事業は施策に紐づけることを念頭に、利用者や地域づくり団体のニーズを把握したうえで企画実施しました。その際、参考となるような全国・他市の「協働のまちづくり」事例を情報提供し、コーディネーターが主体的に企画立案し、事業運営ができるようにアドバイスをしました。

今年度は9月～10月(台風15号被害)、2月～3月(新型コロナウイルス感染防止対応、緊急事態

宣言・外出自粛)があり、閉館または来所が制限され、計画したイベント、講座、セミナー等は開催中止をせざるを得ない状況がありました。そのために来所者数等は減少しました。

- ・コーディネーター会議の開催：全 23 回 (68.5 時間)：毎月第 1、第 3 水曜日 9：00～12：00
- ・とみさと市民活動サポートセンター業務：全 14 日 (90.5 時間)
- 1. 「居場所情報交換会&交流会」を開催、子ども、高齢者の居場所を運営している団体や今後計画している市民など 23 名参加し、団体間の交流、情報交換をすすめ、連携につながった。
- 2. まちづくり協議会等の活性化を目的に「リーダー研修会」を開催、まち協 4 地区リーダー 9 名と市職員 19 名がグループに分かれ、活動報告、課題共有をすすめた。各地域の状況や取組み方の違いを共有し、意見交換が活発に行われ定期的な開催を期待する声があった。話題は「台風災害」に関わるが多かった。
- 3. 富里市市民活動支援補助金に採択された 3 団体のヒアリングや広報活動のサポートを実施した。なかには事業報告書作成や提出に課題があった。
- 4. 若い世代の地域づくりへのニーズ調査を 66 名から対面聞き取りで実施、課題をまとめ、活用を検討した。今後のまちづくり協議会リーダー研修会等でも報告し、解決策について話合っていく。また、市各部署にも関わる事項もあり、庁内での周知が望まれる。
- 5. 富里市のまちづくりに寄附で参加する市民・事業者を増やすため「ちい寄附」を 2 回実施し、ふるさと応援寄附金「市民活動支援補助金」の原資とした。賛同店舗が減少し、寄付金額が伸びず、参加店舗への働きかけについて課題が残った。
夏キャンペーン (7 月～8 月) 賛同店舗 13：23,284 円、冬キャンペーン (12 月～1 月)：15 店舗 31,582 円
- 6. 昨年中止となった第 7 回富里市民活動フェスタ開催にむけて、担当コーディネーターは企画運営委員会に出席し、市と共に事務局の一部を担った。事前準備等はスムーズにすすめられたが、当日の参加者約 3,000 人と減少し、改めて開催趣旨などについて確認、出展者の主体的な参加を育む仕組みについて議論をすすめる。
- 7. 「夏休み小学生ボランティア体験」プログラム受入れ 10 団体、13 プログラムを実施、延べ 97 名(参加児童数：61 名)が参加した。報告書を作成し、全 6 校に配布した。受入れ団体の活動を参加した子どもだけではなく、その保護者にも理解を求める工夫が必要であり、改善策を話合った。
- 8. 中学生の職場体験を受入れ、北中、南中、富中から 12 名の申込みがあり、各 2 日間ずつのプログラムを実施、おおむね好評であった。その後、ふれあい教室の生徒が別日に体験を希望され受入れた。
- 9. 富里高校文化祭で商工観光課、ふるさと産品協議会と連携、「富里ふるさと産品」について説明や試食を実施、約 200 名から意見収集を行った。高校生にとってふるさと産品を知る機会提供となった。市のさらなる広報活動が望まれる。
- ・年間相談件数：87 件(前年 83 件)
相談対応件数は前年に対して微増、新規の相談者が増え、相談事業の定着とみることができる。コーディネーター会議で相談案件に対して、様々な視点から検討を重ね対応スキルが向上した。特に庁内部署、関係機関、活動団体へのつなぎ方も的確になり、地域づくり団体の課題の発掘にもつながった。また、八街市地域コーディネーター養成講座の講師としてコーディネーター 2 名を派遣、これまでの相談事業や事業企画について報告した。
- ・ニューズレター第 13 号から第 16 号まで編集発行。コーディネーター会議で年間計画を話し合い、地域づくり情報、団体活動紹介、センター事業報告等を紙面構成、各号のテーマを設定、問題提起、課題提起につながる紙面づくりをめざした。テーマ原稿を書くこと、取材・ヒアリング、校正作業をとおして、協働のまちづくりの課題把握となった。編集作業はカラー印刷に対応スキルアップが図られた。
- ・ニューズレター読者アンケートを実施したが回答者が少なく、参加型の紙面づくりを視野に「編集ボ

- ランティア・市民ライター」を引き続き募集していく。ニュースレター、講座案内チラシの配架に協力する機関、店舗が増えてきたが、配架方法などに課題がありヒアリングする必要がある。
- ・まちづくりに関わる他市情報等、民間の助成金情報等も積極的に収集し該当する団体に直接提供した。「赤い羽根共同募金」1件、「ちばのWA地域づくり基金」1件に情報提供、採択された。
 - ・富里市の魅力発信を目的に「#富里イイネ」Instagram、フォロワー145(前年 115)。さらに、利用者を増やし、活用を呼びかける。
 - ・Facebook の活用は、週に2回投稿を基本に、センター企画、登録団体イベント、市イベント等の情報を発信、フォロワーは466(前年 380)と増えた。登録団体、市民活動団体へのFacebook 立上げ・活用をさらに呼びかける必要がある。
 - ・「伝わる写真講座」を2回開催、スマホでの写真の撮り方、編集方法等の講義の後、ワークショップ体験を通し、具体的な活用につながった。
 - ・「会議運営の方法 グラフィック・レコーディング」講座を開催、市民活動団体、地域包括支援センター、まちづくり協議会等から参加し、会議の見える化の手法を学んだ。団体の打合せや会議運営について、新しい手法を取入れて改善につながっている団体がある。

多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業

開設から6年が経過、公共施設のほとんどが、年代や目的を区別化して運営されている中で、「多世代交流」に視点を置いた事業を継続してきました。

- ・健康貯筋体操、アイチ体操、おとなのための英会話講座等の講座をボランティア講師の協力を得て継続開催し、健康・生きがいを進めました。
- ・「みんなでランチ」を月1回継続開催し、食事を軸とした交流の場づくりを進めました。
- ・「0歳からの英会話」「ヨガ講座」「0歳からの音楽会」等の講座開催スペースを提供することでママ起業家を支援しました。
- ・福祉事業所の物品やNPO法人JFSAのリサイクル衣料品の販売を行い、それぞれの団体への活動の理解と「おおなみこなみ」の運営費の補てんを行いました。
- ・「ロボットプログラミング」講座の会場等、スペース貸しにより運営費の確保に努めました。
- ・「福祉関連事業者、団体の情報交換会」の開催や検見川商工振興会や町会等が主催する「やあびな」への参加を通して地域のネットワークづくりをはかりました。
- ・生活クラブ虹の街から「子ども食堂」運営のための助成金4万円の助成を得て、「みんなでランチ」の経費に充当しました。

千葉県我がまちシニア応援プロジェクト事業

働く世代や退職後のシニア世代にボランティア参加を呼びかけ、高齢者支援団体の課題解決につなげました。仕事の経験を活かしたボランティア「プロボノ」体験を提供し、地域活動参加への新しい可能性を広げるため、プロボノの周知に努めました。

- ・支援対象団体とボランティア希望者をそれぞれ募り、5団体と16名のボランティア参加者のマッチングを行い、3カ月間の支援期間で一定の課題解決をはかれるようサポートしました。
- ・説明会の開催（船橋市9/13、千葉市9/23 参加者25名）のほか、千葉市生活支援コーディネーター会議、千葉県老人クラブ連合会研修、千葉県生涯大学校、千葉市民活動支援センター市民活動サロンなどで事業説明を行い、ボランティア参加希望者のほか、関連機関への周知も行いました。
- ・説明会やオリエンテーションの外部講師として招くなど、認定NPO法人サービスグラントのサポートを受けながら行うことで、事業成果を高めることができました。
- ・2/29 成果発表会を勝部麗子さん（豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長）講演会「ひとりぼっちをつくらない。全ての人に居場所と役割を！～豊中市のコミュニティソーシャルワーカーの実践から」とあわせて行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で開催中止となりました。（100名以上の申し込みあり）活動成果を伝え、今後のプロボノの浸透をはかるため、活動報告冊子をボラ

ンティア参加者とともに編集・作成し、発送しました。

福祉作業所のづくり応援プロジェクト

- ・ 福祉事業所の販路拡大を目指す、地域創造ネットワークちばの「カタログ選定プロジェクト」に賛同し、「生活クラブ・スピリッツ『Meguru (めぐる)』」カタログ掲載に協力し、福祉事業所の製品を紹介しました。

福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業

東日本大震災により福島県から避難し、千葉県で暮らす被災者を支援しました。

- ・ 千葉県内の生活情報や支援情報を掲載した被災者向け情報紙「縁 joy」を作成、被災元自治体の協力を得て、県内に避難している被災者世帯に送付しました。(1月を除く毎月2000部発行)
- ・ 被災者支援の活動を行っている団体、専門家(臨床心理士、保健師等)、福島県職員、千葉県職員の参加を得て、被災者支援情報交換会を6/17、2/20に開催しました。
- ・ 学習会「今後の防災・避難を考える講話会」を2/29に千葉市生涯学習センターにて開催しました。南相馬市の精神科病院勤務中の震災で、100名の患者を避難させた加藤さんと、昨年の千葉県内の台風・豪雨被害の様子を、千葉市にて軽費老人ホームを運営する社会福祉法人理事の鳥越さんから講話いただきました。
- ・ 県内の支援団体等がメンバーとする実行委員会を組織し、実行委員会を5回開催してイベント「縁 joy・東北2019」を11/30に千葉市きぼーるで開催しました。参加者530名(内スタッフ関係者100名、ステージ出演者60名)

福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業(福島県県外避難者相談センターちば開設)

- ・ 平日10:00~17:00 電話相談、月・火・水は、拠点での対面相談を実施しました。
電話による相談件数20件でした。
- ・ 提案事業として、避難者の方を講師に迎え拠点にて、避難者と地域住民と一緒の交流会を開催しました。
 - ①4/16 ポーセリンアート 参加者10名(内、避難者5名)
 - ②4/22、2/10 味噌作り&料理教室 参加者18名(内、避難者10名)
 - ③7/1 吊るし雛作り 参加者19人(内、避難者6名)
- ・ 11/30 千葉市きぼーるで開始した復興応援イベント「縁 joy・東北2019」では、専門家による相談対応をしました。
- ・ そごう千葉店の地下そごうギャラリーにて、「忘れない東日本大震災—あれから9年」と題して、3/10~3/16に、震災当時の写真や千葉県内支援団体の活動紹介パネルを展示しました。

福島県避難者住宅確保・移転サポート業務

- ・ 避難指示が解除された地区からの避難世帯のうち、応急仮設住宅の供与帰還終了後の新しい住宅への移行が円滑に進むよう支援しました。
相談実績は、電話相談8件、訪問相談4件(いずれも延べ件数)でした。

千葉県南部災害支援センターを拠点とする被災地支援活動

- ・ 9/9の台風15号、10/12の台風19号の直撃により、千葉県南部を中心に大きな被害が発生しました。千葉県災害ボランティアセンターとの連携により物資提供の仕組み「スマートサプライ」を通して、支援者と被災地を結び、16のプロジェクトに3178点の物資を提供しました。
- ・ NPO法人ディーブデモクラシー・センターとの協働で、鴨川市の「千葉県南部災害支援センター」を拠点とした支援活動を継続実施しました。

浪江町こころ通信取材業務

- ・ 「東北圏地域づくりコンソーシアム」の依頼を受け、福島県浪江町から関東圏に避難している町民や浪江町に戻った町民への取材協力を行いました。作成した原稿は、役場発行の「広報なみえ」に掲載されました。

景観まちづくりフォーラム

- ・「景観まちづくり千葉協議会」を継続して開催しました。6/15に「景観まちづくりフォーラム in 学園通りー楽しいをカタチに」をテーマに、千葉大学と近隣の町並みを会場にフォーラムを開催しました。参加者は79名（うち、まち歩き参加44名）でした。
- ・「協議会」の実質構成団体が少なくなっていること、事務局経費が確保できないことから、7月にて、活動休止することとしました。

SAVE JAPAN プロジェクト

- ・ 損害保険ジャパン日本興亜株式会社協賛で日本NPOセンターと共催する希少生物保護活動事業を受託。7/31一宮町の「一宮ウミガメを見守る会」のイベント「ウミガメの足跡探し（参加者46名）」と「ウミガメの手ぬぐい作り（参加者12名）」を実施しました。

ボランティア推進団体会議

7/6、7の2日間にわたり、生活クラブ虹の街の協力を得て、「SDGsが取り残すものー今ある地域課題をSDGsで解決できるのか？」をテーマに開催しました。全体会と4分科会、クロージングの構成で全国から延べ約200名の参加を得ました。

NPO法人地域創造ネットワークちばの事務局業務

地域創造ネットワークちばとの委託契約に基づき、事務局業務を行いました。第13回総会を5/21に、理事会は7/18、12/3、2/18、4/21に開催しました。4月理事会、5/19総会は新型コロナウイルス感染防止のために書面審議としました。

(1) 相談事業

- ・ 発達障害のある若者から農業への就労・研修の相談があり、これまでフェスタや交流会で情報交換してきた団体に協力をいただき、受け入れが可能なグループにつながった事案がありました。今後このような相談に対応できるように県内の団体情報の収集を行います。

(2) 情報収集・提供事業

- ・ Facebook ページおよびブログで、「ちばユニバーサル農業フェスタ」の開催や出展団体紹介を年間通して行いました。(Facebook ページ「いいね!」506件)
- ・ ちばユニバーサル農業フェスタの開催について、県内メディアにリリースを行い、3紙のイベント紹介欄に掲載、当日は日本農業新聞が取材し記事が掲載されました。

(3) 連携（ネットワーク）事業

- ・ 生活クラブ千葉グループ協議会、千葉県労働者福祉協議会理事として参画し、主に「農業の可能性」「農の価値」を地域に広く伝え、多様な市民が「農」に関わるしくみづくりをすすめました。
- ・ 社会福祉法人生活クラブが主催するユニバーサル農業さくら野菜お届け便円卓会議にメンバーとして参画しました。
- ・ ユニバーサル農業で生産される農産物や加工品の販売促進を目的に、生活クラブ・スピリッツと提携、カタログに掲載、受注の取り次ぎを行いました。
〔受注した商品〕いちじくジャム75個（2019春・夏、秋・冬・2020春カタログ）、
- ・ 「第9回ちばユニバーサル農業フェスタ」を開催、「みんながかかわる農業」を推進する様々な人たちが出会い、交流しました。ただ、来場者が限定的であったため(大型バスの立ち寄りがなかった)前年より減少、9月、10月に台風災害が発生したことによるものと推測されます。

日時：11月16日（土）10：00～15：00 会場：道の駅発酵の里こうざき

協賛：恋する豚研究所、生活クラブ生協千葉、千葉県労働者福祉協議会、生活クラブ風の村

来場者：500人 後援：千葉県、神崎町、千葉県生活協同組合連合会

出展団体：地元農家5団体、印旛香取地域の障がい福祉事業者8団体 総売上げ：291,367円

佐倉のアグリフォーラム実行委員会が主催して例年開催される「アグリフォーラム&ユニバーサル農業フェスタ」（佐倉市）は、台風15号、19号の影響で開催中止となりました。

第1回つながる経済フォーラムを開催、参加者は155名(市民、事業者・企業、NPO、行政、関係機関)、参加者アンケート(88名)では非営利セクター、中小企業家、行政が鼎談した意義が大きいこと、リレートークで発表した7団体の事業活動内容に多くの関心が寄せられました。また、次回開催について期待する声がありました。世話人会事務局を担当、世話人会を5回開催、多様な意見交換を得てフォーラム開催に至りました。開催報告書を500部作成発行しました。世話人会、フォーラム開催にかかる経費(案内チラシ印刷、報告書印刷等)は、千葉大学伊丹先生の科研費から協力いただきました。

ちばNPO協議会の事務局業務

- ・ちばNPO協議会の事務局を担い、幹事会4回(5/25、7/22、9/30、1/27)を開催しました。
- ・7/25の総会後に講演会「SDGsと市民活動」を岡山NPOセンターの石原達也さんを講師に開催しました。
12/6および2/20に学習会「となりのNPOー社会的役割を再確認&次のステップを見つけよう！」を開催。県内の団体の活動報告をもとに、今後の団体の方向性について意見交換、課題共有しました。
- ・ニューズレター35号を編集発行しました。

4. 広報事業

- ・ニューズレター「つぎの一步くん」66号、67号、68号、69号を毎回1,000部発行しました。NPOの活動課題に沿った情報を掲載し、会員のほか、県内外の市民活動センター・中間支援団体等に配布しました。
- ・掲載する情報を会員から広く募集し、メールマガジン「通信・一步くん」を月2回配信しました。
- ・千葉の公益ポータルサイト「ちばNPO情報館」の登録団体(117団体)に公開情報の更新をメール等で呼びかけました。
- ・団体ホームページのほか、団体ブログ「NPOクラブの愉快的仲間たち」「縁joy東北〜エンジョイ東北」、Facebookページ、Twitterページを適時更新しました。
- ・千葉日報社の千葉の情報ポータルサイト「ちばとび!チャンネル」に「CHIBAKARA〜ちばからチャンネル」を開設、適時更新しました。

5. 他団体との連携・協力事業

- ・公益財団法人ちばのWA地域づくり基金に理事として、業務執行理事ミーティング10回、定例理事会3回、臨時理事会3回に出席し、寄付募集、助成審査、諸規定の改定、制定等に携わりました。2019年度の特徴的なこととして、台風15号や豪雨と大きな災害に見舞われ、迅速に災害支援基金を設置し、全国の被災地を応援したい人の受け皿となり、被災者支援に取り組む組織へ助成ができたことは、寄付者とNPO、被災者とNPOのつなぎ役としての機能を果たすことができました。また、被災者・被災地のニーズを現地で把握し、適切に助成を実施していく取組みが評価され、大口の寄付を預かることにつながった。災害時の対応、特設サイト構築等に全国コミュニティ財団協会から協力をいただきました。

財政面では特に運営のための資金調達に課題が残り、今後は事業収入、助成金、寄付、サポーターの獲得、包括的な支援プログラム・事業の設計をした上での資金調達を積極的に進めていきます。

「2019千葉県台風・豪雨災害支援基金」寄付総額：7,182,290円 助成：25事業
被災地で使用したブルーシートでトートバッグ(ブルーシードバッグ)をつくり、ゴミの削減と被災地支援につなげるプロジェクト「BRIDGE CHIBAプロジェクト」にプロジェクトメンバーとして参画。メンバー：千葉テレビ放送、グロリア、LOVES COMPANY、ちばぎんハートフル、

ちばのWA地域づくり基金。寄付金は「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」を通じて被災地支援活動に助成の予定。

- ・生活クラブ千葉グループ協議会に参加し、年 4 回開催される役員会、運営委員会に出席、「生活クラブ安心システム」「街の縁側」「子どもの安心システム」に協力しました。組織内にちば社会的連帯経済研究所が設立し、研究冊子の編集委員に就任しました。
- ・社会福祉法人生活クラブが主催する「コミュニティ・デザイン手法によるまちづくり」事業に研修として参加しました。八街市吉倉地域に建設する小規模多機能居宅介護事業所を拠点として、どのように市民参加を促すのか、市民の主体性を掘り起すのかをヒアリングやワークショップの手法を学んでいます。
- ・「つなぐ CHIBA プロジェクト」との共催で、「被災地支援ボランティアバス」を 27 名の参加を得て運行。南房総市の大房岬自然公園と近隣農家で、ボランティア活動を行った。
- ・千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議に参加し、県内 20 市町村が設置する市民活動支援センター、中間支援団体とともに研修会等を開催しました。
- ・千葉県県民活動推進懇談会副座長に就任しているが、委員会は台風被害の影響により開催されませんでした。年度末には事業評価、事業の進捗について書面開催となり意見を述べました。
- ・千葉県社会福祉協議会 政策調整委員会、千葉県地域ぐるみ福祉振興基金助成事業運営委員会参加しました。
- ・浦安市、千葉市、大網白里市、松戸市、印西市、習志野市、市原市の委員会等に市民・NPO の立場に関わり、協働事業の選考や市民活動支援補助金の審査、協働推進に関わる計画づくりに携わりました。
- ・中央ろうきん助成プログラムの選考、運営に協力しました。